

本日の内容



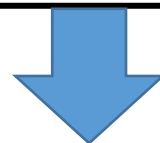
1. 多様な学びの場と管内の状況
2. 特性の理解と適切な関わり方
3. 保護者対応と心情理解



保護者対応と心情理解

保護者と連携するときの前提

教員は、家庭の課題を解決できない。
保護者は、学校での課題を解決できない。



教員は、学校での課題を解決する。
保護者は、家庭の課題を解決する。



教員と保護者が連携し、検討した支援が児童生徒の**生活の充実**や**今後の成長**に結び付く。



保護者対応と心情理解

保護者と懇談するときのポイント

- ① 今、解決したい課題がある(最優先課題を抽出)。
- ② 解決に向けての支援プランを作成する。
- ③ 支援プランを実行する上で、保護者に協力してほしい内容を明確に提示する。
- ④ 本人を中心に考える(全て子どもも本人に必要なことである)。
- ⑤ 支援プランを実行すると得られるメリットを明確にする。
- ⑥ 案が採用されないときの代案を用意しておく。



保護者対応と心情理解

保護者の理解が得られないときのポイント

保護者の心情理解

- ・保護者が全く、気付いていない。
- ・分かっているにもかかわらず認めたくない。

懇談の目的を明確にしてから臨む

- ① 保護者の思いや考えを受け止める。
- ② 子どもを理解してもらうための「大切な話」であることを伝える。
- ③ 保護者が希望をもって子育てできるように学校として支援することを伝える。
- ④ 専門家につなぐための第一歩にする。



保護者対応と心情理解

保護者の理解が得られないときの会話のポイント

会話例

- ①「A君が、困っています。」
「学校でこんなことが起きていますが、一番困っているのは、A君自身です。」
- ②「こういう理由からこんなことが起きていると思われ
ます。A君が困らない方法を考えたいです。」
- ③「今すぐにはできることは、これです。」
「A君のために、こんなことをしてみようと考えて
います。」
- ④「こうすることで、A君のこのような成長が期待
できると思います。」
- ⑤「保護者の方の御意見も伺いながら進めて行き
たいと考えています。いかがでしょうか？」

ポイント

- ①事実や経緯の
確認
- ②特性理解
- ③プランの提示
- ④メリットの説明
- ⑤連携の要請



保護者対応と心情理解

保護者の特性を見極める

①話を全く受け入れてくれない保護者

⇒まずは保護者の話をじっくり聞く。否定しない。
子どもの一番の理解者であることを尊重する。

②話がコロコロ変わる、話したことを忘れる保護者

⇒大切なことは書いて整理する
目に見える形で提示する。

③話が苦手でその場で思いを伝えることが難しい

⇒連絡ノートやメールを活用する。



保護者対応と心情理解

保護者を傷つける言葉①

「学校では、そういうことはできません。」

「一人だけ特別なことはできません。」

- ◎ まずは、要望として受け止めます。はじめから「できない」と言わない。合理的配慮の観点からできることはないか考え、検討した結果を伝える。
- ◎ 「今はそういう点には取り組めていませんが、現在はこういうことに取り組んでいます。要望があれば、お聞かせください。」

「専門的なことはよく分からないので。」

「困っています。」

- ◎ 専門家と連携して関わっていくことを伝えましょう。
- ◎ 困っているのは、「子どもと保護者」。



保護者対応と心情理解

保護者を傷つける言葉②

「普通のお子さんと思っています」

「先入観はもちたくないの」

「大丈夫です、問題ありません」

「他にもっと大変な子がいますから」

「学校がどんなところか分かっていませんね」

「他のお子さんもいますので」

「忙しくて」



「肯定的に子ども見る力」

いつも心がけたいこと

- ・こだわりが強い
- ・わがまま
- ・人の気持ちをよめない
- ・うっかりやさん
- ・集中力がない
- ・作業が遅い



Blank yellow boxes for writing goals or notes.

まずは褒める！みんなの前で認める



本日の内容



1. 多様な学びの場と管内の状況
2. 特性の理解と適切な関わり方
3. 保護者の心情理解と対応

